

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 10年4月 ～生産の回復ペースは鈍化

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

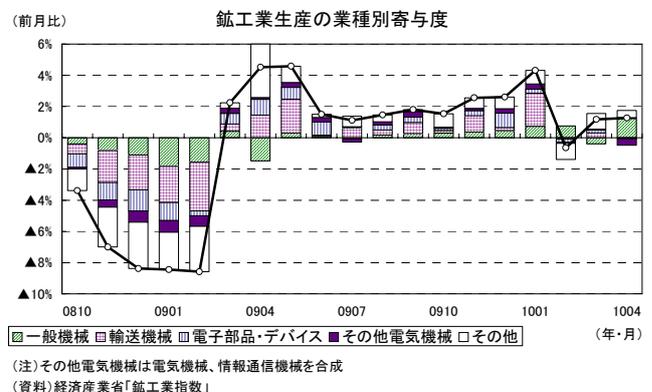
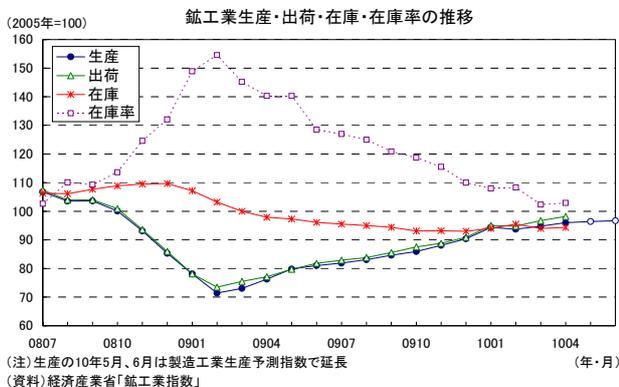
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産は予想を下回る伸び

経済産業省が5月31日に公表した鉱工業指数によると、4月の鉱工業生産指数は前月比1.3%と2ヵ月連続で上昇したが、事前の市場予想（ロイター集計：前月比2.5%、当社予想は同2.2%）は大きく下回った。出荷指数は前月比1.6%と2ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比0.3%と2ヵ月ぶりの上昇となった。

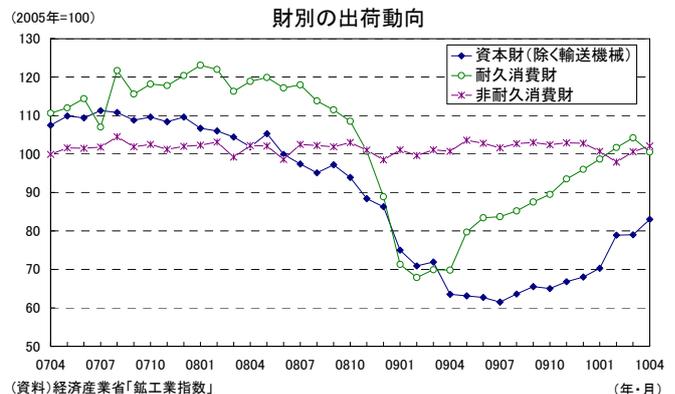
4月の生産を業種別に見ると、設備投資の持ち直しを受けて一般機械が前月比12.0%と非常に高い伸びとなったが、在庫調整に伴う減産が続く情報通信機械が前月比▲6.2%と3ヵ月連続で低下した。情報通信機械は3ヵ月間で▲12.4%の大幅低下となった。

速報段階で公表される16業種中、9業種が前月比で上昇、7業種が低下となった。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は1-3月期に前期比14.3%と非常に高い伸びとなった後、4月も前月比5.1%と好調が続いた。建設投資の一致指標である建設財出荷は1-3月期の前期比3.4%の後、4月は前月比3.4%となった。

GDP統計の設備投資は09年10-12月期が前期比1.3%、10年1-3月期が同1.0%と2四半期



連続で増加したが、4-6月期も回復傾向が続いていると考えられる。

消費財出荷指数は1-3月期の前期比2.4%の後、4月は前月比▲0.8%となった。非耐久消費財は前月比1.5%の上昇となったが、エコカー減税・補助金、エコポイント制度といった政策効果から好調を続けてきた耐久消費財が前月比▲3.6%と1年ぶりに低下した。単月の結果だけでは判断できないが、急回復を続けてきた国内自動車販売の伸びはここにきて頭打ちとなっており、政策効果が一巡しつつあることを反映した動きである可能性もあるだろう。

2. 4-6月期も増産見込みだが、伸び率は大きく低下へ

製造工業生産予測指数は、5月が前月比0.4%、6月が同0.3%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（4月）、予測修正率（5月）はそれぞれ▲2.0%、▲1.3%であった。

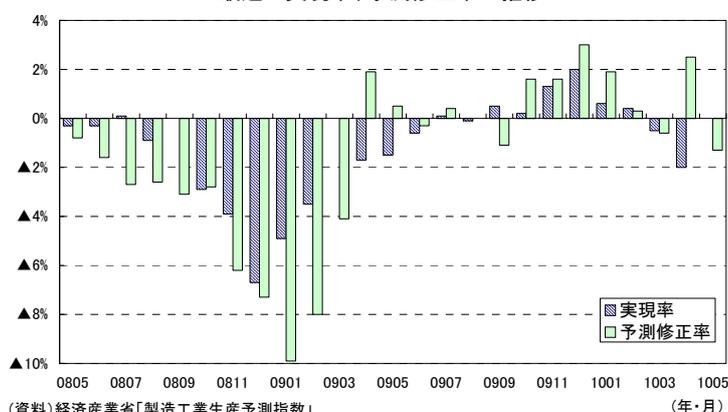
昨年春以降の生産回復局面では企業の生産計画が上方修正される傾向があったが、このところ下方修正が目立つようになっている。この点は生産の先行きを見る上で懸念材料のひとつと言える。

予測指数を業種別に見ると、3ヵ月連続で大幅に低下した情報通信機械は5月が前月比2.4%、6月が同0.9%と増産に転じる見込みとなっているが、4月の実績は前月時点の計画から大幅に下方修正（実現率：▲2.5%）されており、予断を許さない。

また、生産の牽引役となってきた輸送機械は5月が前月比▲1.4%、6月が同▲2.6%と2ヵ月連続の減産計画となっている。輸送機械は09年4-6月期以降、前期比10%前後の高い伸びを続けてきたが、10年4-6月期は前期比で若干の低下となり、牽引役の座を降りることになりそうだ。

4月の生産指数を5月、6月の予測指数で先延ばしすると、4-6月期の生産指数は前期比2.2%の上昇となる。5四半期連続の増産は確保できそうだが、1-3月期の前期比7.0%からは伸びが大きく低下することが見込まれる。

最近の実現率、予測修正率の推移



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。